

## AM-715 の耳鼻咽喉科領域における臨床的検討

杉 田 麟 也 ・ 河 村 正 三  
市 川 銀 一 郎 ・ 藤 巻 豊\*

目的：新しい化学療法剤 AM-715 の耳鼻咽喉科感染症に対する臨床効果を検討した。

方法：初診時に細菌検査，血液生化学検査などをおこない，AM-715 600 mg/日を分3で投与した。可能な限り毎日診察し自他覚所見を観察し臨床効果を判定した。効果判定は当科の基準に従った。細菌検査は検体を TCS プロスに保管し当日のうちに東京総合臨床検査センターでおこなった。

対象：順天堂大学耳鼻科，医療法人江東病院耳鼻科，越谷市立病院，東京労災病院，あそか病院を受診した患者である。

結果：① 臨床効果を検討しえたのは 78 例であった。78 例中の 78.2% は著効および有効であり，疾患別には急性中耳炎 100%，慢性中耳炎急性増悪 65.2%，扁桃炎 80% の有効率であった。

② 副作用は 3 例で認められ，浮動性メマイ感 2 例，嘔気および下痢 1 例であった。

③ 主な検出菌の最小発育阻止濃度 (MIC) を測定した。S. aureus は 0.1～1.56  $\mu\text{g/ml}$  で峰は 0.78

$\mu\text{g/ml}$  に，P. aeruginosa は 0.1～0.78  $\mu\text{g/ml}$  で峰は 0.1 と 0.2  $\mu\text{g/ml}$  であった。S. pyogenes は 0.39～6.25  $\mu\text{g/ml}$  に，S. pneumoniae は 6.25～12.5  $\mu\text{g/ml}$  であった。

考察：対象の 78% は有効症例で，満足しうる結果であった。症患別に検出菌種の MIC と臨床効果の関係をみても若干の相違は認められたが大むね良い相関を認めた。扁桃炎の A 群溶連菌に対する抗菌力にやや疑問が持たれた。

### 質 疑 応 答

岩沢 (札幌通信) AM-715 の臨床効果の有効率の差異は投与条件，殊に投与対象疾患の症状の程度，感染症の巣の病原菌の種類，混合感染，薬剤感受性の度合などで生じるものと推定される。

AM-715 はその抗菌力，吸収分布排泄などの基礎的検討成績と臨床治療成績の結果から，当科領域でかなり有用な抗菌治療剤として期待される (追加)。

## BLMA<sub>2</sub> の膜透過性に対するポリエン系 抗生物質の関与

小宮山荘太郎 ・ 牧島 和見 ・ 広戸 幾一郎†  
秋山 伸一 ・ 桑野 信彦††

ポリエン系抗生物質は，その化学構造上エン構造によつて特徴づけられている。酵母や真菌類以上の高等生物の主として分布するステロール成分と反応する数多くの種類のポリエン系抗生物質が開発されている。

私共は各種抗生物質や制癌剤とポリエン系抗生物質とを併用することにより，培養系の酵母・動物・人などの細胞に対する致死効果が相乗的に亢進することを観察している。

\* 順天堂大学医学部耳鼻咽喉科学教室

† 九州大学医学部耳鼻咽喉科学教室

†† 大分医科大学生化学教室